

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25283006

研究課題名(和文)生活世界の変容とジェンダー：インド高齢女性のライフヒストリーを通して

研究課題名(英文) Transformation of Everyday Life and Gender: Life Histories of Elderly Women in India

研究代表者

押川 文子(Oshikawa, Fumiko)

京都大学・地域研究統合情報センター・名誉教授

研究者番号：30280605

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、高齢女性の詳細なライフヒストリーを記録することにより、経済成長下のインドにおける生活世界の変化を、とくに女性をめぐる関係性の変化に注目しながら明らかにしようとした。3年間の研究期間中、デリー、ヴァラーナシー、プネという文化や経済状況の異なる都市部とその周辺において全体で40件の詳細なライフヒストリーを採取し、現地語および英語翻訳による記録を作成した。またこれらのライフヒストリーの分析を通じて、衣食住など生活世界の物的側面だけでなく、大きな階層や地域による違いがあるものの、多くの事例において家族の関係や考え方などに大きな変化が生じていることが確認された。

研究成果の概要(英文)：The main aim of this project is to record detailed life histories of elderly women in India, focussing on the transformation of everyday life, both of material aspects and of 'human relations and perceptions' with family members and local communities. 40 life histories, collected at Delhi, Pune and the rural area of eastern UP, were recorded by local language and translated into English. These life histories reveal very different nature of experiences of elderly women according to regions, classes and families and individuals. At the same time, they also show that most of the elderly women we interviewed are not passive beings. They have fought and negotiated throughout their lives for survival and betterment of their family, and sometimes for the society and themselves as in Pune's cases.

研究分野：地域研究

キーワード：インド 高齢女性 ライフヒストリー 家族 女子教育 消費社会

1. 研究開始当初の背景

(1)2000 年代に入る頃から経済成長加速したインド社会については、人類学や社会学分野において消費の拡大や情報化など新しい現象を焦点に、都市中間層などに焦点をあてた研究が蓄積されてきた。また大型統計資料の公開が拡大するなかで、全体的傾向を検討する研究も発展している[押川・宇佐美 2015]。

これらの研究を通じて、少子化が進行し、教育や医療などが広い階層に拡大する一方で、日常レベルの食や衣の変化は一部の中上層を除いては限定的であり、きわめて大きな地域間格差があることが明らかにされている。また家族や地域社会における変化の具体的様相やジェンダーや世代など様々な関係性の変化について当事者の視点を含めた分析は比較的少ない状況にあった。

(2)こうした研究状況の背景には、日常の変化を分析することのできる資料、例えば家計簿や日記、日常を映した写真といった資料の蓄積がきわめて少ないことがある。とくに女性の生活世界の変容や家族内の関係性については、ルポルタージュなど断片的な記述が大半である。

(3)上記の研究状況から、地域的特性や経済状況、階層などを考慮しつつ、家族という場で生涯の大半を過ごしてきた高齢女性のライフヒストリーを記録・蓄積することは、生活世界の変化の具体的様相を考察するうえで、資料基盤の拡大と当事者の視点を含めた社会変容の分析の両面においてきわめて有効であると考え、本研究を計画した。

2. 研究の目的

(1)地域の特性や経済状況、階層などを考慮しつつ、高齢女性(60歳以上)から詳細なライフヒストリーを聞き取り、インタビュー言語および英語(翻訳)によって文書として残すことが第一の目的である。インタビューにあたっては、衣食住、教育や雇用、移動、および世代やジェンダーなどに留意しつつ家族・

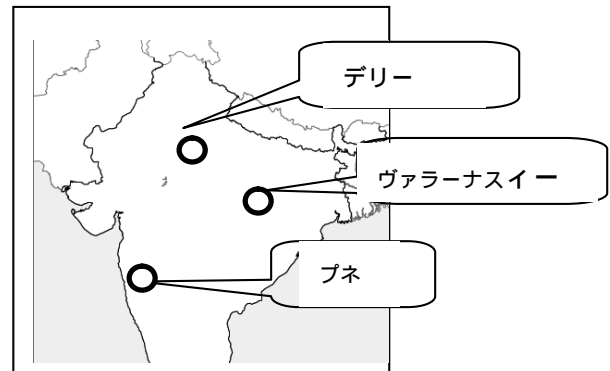
親族、さらに友人や地域社会の関係、ネットワーク、相互扶助、情報など、生活世界の変容の分析を念頭においた内容とした。

(2)記録したライフヒストリーを、地域(インタビュー対象者が主として居住している地域)の経済状況やインフラ整備、政治状況に関する資料等と突き合わせ、地域の発展と個人史との接点を考察する。

(3)上記(1)および(2)をもとに、地域的特性、経済状況、階層など異にする女性の経験と認識の共通点と相違点を比較検討し、生活世界の変容と地域社会の変化のなかに位置づける論考を準備する。

3. 研究の方法

(1)ライフヒストリーを地域の状況のなかに位置づけるために、3地点を選択し、それぞれ階層を限定しながらライフヒストリーを聴取・記録した。



[調査地点と調査対象]

・首都として急激な都市拡大と経済成長を経験したデリーでは70年代以降開発された低所得～中所得住宅地において、遠隔地から労働者として移住し都市に定着した低所得層と「ビジネス」と総称されるようなインフォーマル部門の中間層を選択した。

・情報工学など先端的な企業が多数立地し経済都市としても成長が見られた西インドの歴史的文教都市プネでは、この地域の政治や文化を中心的に担ってきたチトパーヴァン・ブラーマンと呼ばれる高位カースト集団から対象者を選択した。

・工業化に遅れ経済的には後進的とされなが

らも下位～中位カーストの間に著しい政治的台頭が見られた北部インドのヴァラーナシーおよび近辺の農村部からは、都市中間層と中堅農民層を選択した。

[記録方法]

録音記録は、インタビュー言語（ヒンディー語、マラーティー語、英語）でテープ起こしをしたのち、英語以外については英語への翻訳を行った。

(2)国内研究会に加えて現地側研究協力者とともに毎年デリーにおいてワークショップを開催し、それぞれのインタビュー記録を共有するとともに、インタビューから考察しうる生活世界の変容についてまとめ、全体的な傾向を検討した。

(3)インタビュー記録については、必要な個人情報に関する配慮および若干の整理を行い、非商業出版物もしくはCDの形態で研究者を対象とする公開を準備している。また分析結果については代表者、分担者、協力者の共同執筆による学術書として刊行する準備を進めている。

4. 研究成果

(1)本研究の第一の成果は、詳細なライフヒストリー記録の作成である。3地点で全期間に40件の記録を作成した。デリー、ヴァラーナシー周辺農村部については、高齢女性だけでなく、その家族に対するインタビューも実施したケースが複数あり、この場合は1家族を1件とカウントしている。当初はもう少し多いインタビュー件数を予定していたが、1件について複数回のインタビューを実施した例が多くあり、件数を増やすよりも1件ごとの情報量の確保やインタビュー対象者との良好な関係構築を重視した結果、この件数となった。すべてについて、録音記録、インタビュー言語によるテープ起こし原稿、インタビュー言語が英語でない場合は英語翻訳原稿を作成した。

(2)インタビューについては、担当したメンバ

ー（代表者、分担者、協力者）が中心となって、それぞれの地域ごとに注目される特色を考察している。

・ブネ（担当：研究分担者 松尾瑞穂）

ブネのサンプルは全員、この地域において政治や文化、社会運動などに大きな役割を果たしてきたチトパーヴァン・バラモンの高齢女性たちである。一部は移動先のバンガロールにおいてもインタビューを実施した。

他の2地域の対象者とは異なり、ブネの対象者はすべてカレッジ以上の教育を受けており、なかには修士号、博士号取得者も含まれ、教職や銀行員など専門職・ホワイトカラー職で働いた方が過半を占める。全員結婚しており、結婚後も教育を継続したケースも複数ある。子供数は2人程度である。ブネのライフヒストリーの特色として、幼少時から高等教育就学時代を経て現在に至るまで、質実さや自助に強い価値をおいてきたことを語るケースや、就業した場合はもちろん「専業主婦」の場合も社会活動に参加するなど、個人として社会とのかかわりを持ち続けたケースが多いことが挙げられる。対象者のほとんどは現在も中間層上層の地位を保持しているが、価値観を異にする新興中間層が台頭するなかで、総じて地域の政治的変動にも敏感であり、進歩的エリートとして社会への責務を果たすという強い姿勢を語るケースが多い。また、学生時代からの女性友人と強い絆を維持しているケースなど、家族の枠にとらわれない関係を作っている場合や、子供たちの海外への移動や国際結婚を容認するなど家族成員の自立・個人性への容認度も高い。ブネのサンプルは、進歩的であることに強い価値がおかれた1950-60年代に都市部において人格形成をした女性たちの例として、きわめて資料的な価値の高い記録となっている。

・ヴァラーナシー後背地の農村部（担当：研究分担者八木祐子、協力者菅野美佐子）

一方、北部インドの農村部の中間カースト

の自作農世帯の女性たちを対象にしたサンプルは。就学経験は初等教育程度、10代半ばで婚家に移り4、5人の子供を育て、農作業と家事をこなしながら高齢にいたった方々である。自分史を語るという経験はほとんどなく、聞き取りは仕事の合間を縫って断片的な会話を重ねる形で実施した。そのため大半のケースで聞き取りは複数年・複数回にわたっている。この農村部サンプルからは、ほとんど記録が残されていない衣食住など農村の生活世界の物質的な側面の変化を追うことができた。例えば、子世代の農外雇用や労働移動によって現金収入を確保するようになった比較的豊かな世帯では、近年、この地域の農村家屋とは異なる個室や台所、浴室などをもつ家屋を新築するケースも増えている。従来の「個」のスペースをほとんどもたない農村住居から見ると大きな変化であるが、同時に詳細な聞き取りは個を前提とする住居においても、祖父母と孫が一つの部屋で寝起きするといった従来の家族関係を反映した「使い方」がなされるなど変化のプロセスを示す多くの事象を確認することができた。また、様々な開発政策の導入や農外雇用の拡大のなかで、息子たちの雇用や職業には大きな変化が見られ、嫁たちの教育水準の向上や結婚年齢の上昇も顕著である。それにともない家父長と息子たち、義母と嫁などの規範的關係にも明確な変化が生じているが、多くの場合、農村内外に拡大する家族の結節点として新しい役割も担っており、平均余命の延長にともない姉妹や親せきの女性同士で巡礼旅行にでかけるといった高齢期の女性のネットワークも拡大している。

・デリー（担当 研究代表者押川文子、協力者 Rajni Parliwara(デリー大学)）

デリーでは、押川・Parliwaraが2013年に実施した家族調査の調査地において高齢女性を含む世帯を抽出し聞き取りを実施した。また、可能な場合は、高齢女性とともにその家族にもインタビューを実施することによって、

世代やジェンダーによる記憶や認識の違いにも着目しようとした。

デリーのサンプルのうち低所得層の多くは、1960年代～70年代初頭に近隣州および南部のタミルナドゥ州からデリーのスラムに労働者として移動してきた人々である。その後1970年代のスラム・クリアランス計画によって現住所に小区画の土地を入手して、小屋から徐々に二階建て、三階建ての家屋を建て、都市住民として定着してきた。インタビューにおいては、母親に連れられて建設現場や掃除の手伝いをして過ごした子供時代、夫ともに労働者として働き続けた時期、子供の教育、やがて家屋の一部を賃貸にしたり小商店を営営するなどして不安定ながらも所得向上が可能になった高齢期など、徐々に都市に定着する過程が語られている。雇用を確保し、様々な情報やネットワークを維持するうえで家族・親族（母方も含む）が決定的に重要であったこと、上昇の大きな契機が政府の貧困対策にあったことなどが、多くのケースに共通している。

この家族・親族の重要性は、商店主やさまざまな「エージェント」などインフォーマル部門の中間層世帯にも共通している。低所得層と同様に、この層のライフヒストリーの多くの部分が兄弟姉妹や親族のライフヒストリーと重ねて語られる傾向があり、安定性を欠く生計を支えるために、兄弟姉妹・親族との緊密な關係が維持されてきたことがうかがえる。緊密さはときとして対立や緊張も招いたことも多くの事例で語られた。同じ都市中間層サンプルでも安定したホワイトカラー職が多くを占めたプネの場合は、基本的に個人のライフヒストリーとして語られ、家族・親族内の対立に関する言及はほぼ無かったこととは対照的である。

この点は、デリーの中間層の高齢女性の多くだが、子供たちには高等教育を与えてフォーマル部門の中間層への移行を期待している

こととも関連する。また自宅のしつらえや家財など中間層ライフスタイルの定着や子世代に「正しい結婚」を求めるケースが目立つことなども特徴的である。

(3)上記(2)で言及した多様なライフヒストリーを一括して普遍的な変化のプロセスとして描くことはもとより不可能である。インタビューを実施したすべての地域、すべての階層において、生活世界の物的側面には劇的な変化が生じており、また家族規範も緩む傾向があることは認められるが、高齢女性たちが語ったその具体的な様相には大きな相違がある。本研究では、むしろその相違を手掛かりにして、様々な生活世界を重層的に示す学術書を取りまとめる準備を行っている。

<引用文献>

押川文子・宇佐美好文共編、日本経済評論社、『暮らしの変化と社会変動(激動のインド第5巻)』2016年

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

松尾瑞穂、「新たなサブスタンスとつながりの再記憶 - インドの生殖医療のフィールドから」民博通信、査読無、2015、4-9、DOI 無

八木祐子、「アザムガルの民俗歌謡 婚礼儀礼と女性の歌」、多民族社会における宗教と文化、No.19、査読無、2015、37-52、DOI 無

〔学会発表〕(計8件)

押川文子「シャードラ 拡大する都市周縁庶民の「機会」と「市民性」」、日本南アジア学会全国大会、東京大学駒場キャンパス、2015.9.26

押川文子「インドの少子化と家族の変化」(招待講演)、東京外国語大学インド研究センター、東京外国語大学本郷サテライト、2015.6.15

松尾瑞穂「「みらいの家族を考える 人の心、

制度、科学技術」(招待講演)、日本科学未来館、2016.2.11

Fumiko Oshikawa, Education as Individual Experiences: A Japanese Perspective, International Workshop on 'Education as Individual Experience', India International Centre (New Delhi, India), 2015.2.28

Fumiko Oshikawa, Bollywood Films in Multiplex Age: Cinematic Images of 'Our Society' of Urban Middle Class, (招待講演)International Workshop on 'Rethinking Indian Cinema', NIHU Program of Contemporary Indian Studies, 東京外国語大学本郷サテライト、2014.11.08

Mizuho Matsuo, The Cultural Formation of Assisted Reproductive Technology in India, Seminar at the Centre for the South Asian Studies, Edinburgh University (Edinburgh, UK), 2015.2.26

Fumiko Oshikawa, Path Dependency in Indian Educational Development, International Conference on 'Patterns and Social and Economic Change in Colonial and Independent India, at Jawaharlal Nehru Univ., (New Delhi, India), 2013.12.21

松尾瑞穂「インドにおける断食と自己犠牲のポリティクス」、日本宗教学会学術大会、國學院大学、2013.9.7

〔図書〕(計10件)

押川文子・南出和余共編著、昭和堂、『「学校化」に向かう南アジア 教育と社会変容』、2016、396

押川文子・宇佐美好文共編著、日本経済評論社、『暮らしの変化と社会変動(激動のインド第5巻)』、2015、278

押川文子、東京大学出版会、「学校教育改革 国家、市場、市民社会の間で」(水島司編『有用する都市・農村』、2015、259-294

押川文子、日本経済評論社、「出稼ぎと貧困」

(柳澤悠・水島司編『農業と農村(激動のインド第4巻)』、2015、250-272

八木祐子、東京大学出版会、「北インドの女神信仰にみる社会変容 身体と儀礼のかかわりから」(粟屋利江・井坂理穂・井上貴子編『周辺からの声』)、2015、203-224

松尾瑞穂、昭和堂、産児制限運動の複層的展開 危険なリプロダクションへのまなざし」(石坂晋哉編『インドの社会運動と民主主義 変革を求める人々』、2015、92-117

Mizuho Matsuo, 'Solving Family Problems: The Role of Religious Practices for the Indian Middle Class' in Crispin Bates and Minoru Mio, eds., *Cities in South Asia*, 2015, 228-242

Fumiko Oshikawa, ' "Housewife " and Housework in Indian Urban Middle Class, in Ochiai Emiko and Kaoru Aoyama eds., *Asian Women and Intimate Work*, Brill, 2014, 63-92

松尾瑞穂、世界思想社、「多産、人口、統計学的みらい インドにおけるリスク管理としての産児制限」(市野澤潤平他編『リスクの人類学』)、2014、39-61

松尾瑞穂、風響社、『インドにおける代理出産の文化論 出産の商品化の行方(アジアを学ぼう29)』、2013、56

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

押川文子 (OSHIKAWA, Fumiko)

京都大学・地域研究統合情報センター・名誉教授

研究者番号 30280605

(2) 研究分担者

八木祐子 (YAGI, Yuko)

宮城学院大学・学芸学部・教授

研究者番号 70212272

松尾瑞穂 (MATSUO, Mizuho)

人間文化研究機構国立民族学博物館・准教授

研究者番号 80583608

(3) 連携研究者 無

(4) 研究協力者

菅野美佐子 (KANNO Misako)

Rajni Palriwala